

下記の記事は1986年4月20日の朝日新聞・日曜版に掲載された物です。

.....

強い胃痛の人は活性酸素量が多い

千葉の開業医 調査で判明 的確な診断と治療への応用可能に

日本人に多い慢性的な胃の痛みに、胃粘膜の活性酸素が深く関係していることが、千葉県内の開業医の調査で分かった。

痛みの程度は内視鏡検査では判断がつかず、活性酸素量の判定が新しい新療法として期待される。…調査したのは同県印旛郡印西町の岩井内科クリニック、岩井力医師。

慢性胃炎に的確な治療法がないため、悩んでいる患者も多い。そこで岩井さんは活性酸素に着目。内視鏡検査で慢性胃炎と診断した500人について胃粘膜を採取した。

胃痛の頻度と粘膜の活性酸素量との関係を調べた結果、胃痛が1週間に3日以上起きる高頻度の人は、2週間に1日程度の低頻度の人に比べ約三倍の活性酸素量があった。

胃液の酸性度が強いほど胃痛も強い傾向にあったが、活性酸素量が多い場合は、酸性度に関係なく強い胃痛を訴えていることが分かった。

胃粘膜の活性酸素と胃炎との関係は、国立大蔵病院の北洞哲司・消化器科医長らの研究でも判明している。

ヘリコバクター・ピロリという細菌の感染によって胃粘膜中の多核白血球（好中球）が活性酸素を過剰に産出し、胃粘膜を破壊し、胃炎を引き起こすらしい。しかし痛みの強さと活性酸素との関係が分かったのはこれが初めて。

…活性酸素…

呼吸によって体内に取り込まれた酸素が細胞内の複雑な反応過程で変化してできた不安定分子。反応性が高いだけに細胞膜や遺伝子を損傷する作用が強く、老化やガンとの関連からも研究されている。活性酸素の働きを抑えるにはビタミンE、ビタミンC等が効果的だという。

.....

以上は1994年2月17日の毎日新聞の記事からです。

ヘリコバクター・ピロリ菌は1983年にオーストラリアの研究者が発見しました。ピロリとは胃の幽門のことで、その場所に多く見出されるらせん菌という意味です。

胃内はペーハーが2という強度の酸性環境であることを考えると胃内に細菌が生息できないと考えられていましたが、ヘリコバクター・ピロリ菌はウレアーゼという酵素を大量に作り、これにより酸性を中和して生息しています。

また、ヘリコバクター・ピロリ菌は化学物質を放出し、多核白血球（好中球）を召集します。好中球の作用で炎症が生じて胃の組織が壊れタンパク質が流出した物を栄養源としています。

このようにヘリコバクター・ピロリ菌は胃の粘膜を栄養源とし粘膜を溶かしたり傷つけたりするため、胃炎や胃潰瘍の原因となります。

唾液などを通じて経口感染します。先進国での感染者は少ないのですが、日本では戦後の衛生状態の悪いときに感染した人が多く、40才台以上の感染率は約8割です。

欧米では抗生物質などの複数の薬剤を投与する除菌療法が行われています。日本では抗生物質投与は保険で認められていません。

ヘリコバクター・ピロリ菌の感染メカニズムを研究している張慧敏氏（国立国際医療センター研究員）は、ビタミンCがヘリコバクター・ピロリ菌の増殖を抑えることを明らかにしました（1997. 5. 13. 毎日新聞）

ビタミンCは胃痛に関係する活性酸素の働きを抑える他に、胃痛・胃炎・胃潰瘍・胃ガンの原因と考えられるヘリコバクター・ピロリ菌の増殖を抑えてくれます。
